

ICTサービス安心・安全研究会

青少年の安心・安全なインターネット利用環境整備に関するタスクフォース（第3回）

1 日時 平成28年6月9日（木）13:00～14:30

2 場所 総務省 第3特別会議室（11階）

3 出席者（敬称略）

○構成員

中村主査、浅井構成員、上沼構成員、宇津木構成員、尾花構成員、岸原構成員、森構成員
（欠席：曾我部主査代理、尾上構成員（代理として（一社）安心ネットづくり促進協議会事務局の白戸氏が出席））

○オブザーバー

株式会社NTTドコモ、KDDI株式会社、ソフトバンク株式会社、（一社）全国携帯電話販売代理店協会、（一社）テレコムサービス協会、（一社）電気通信事業者協会、（一財）マルチメディア振興センター、内閣府、文部科学省

○総務省

福岡総合通信基盤局長、大橋総合通信基盤局電気通信事業部長、吉田データ通信課長、湯本消費者行政課長、吉田消費者行政課電気通信利用者情報政策室長、寺本消費者行政課課長補佐、鈴木消費者行政課課長補佐

4 議事

（1）開会

（2）議題

- ① 青少年の安心・安全なインターネット利用環境整備について
・主査提案

- ② 自由討議

（3）閉会

5 議事要旨

◎議題

① 青少年の安心・安全なインターネット利用環境整備について

- ・事務局から資料3-1「青少年の安心・安全なインターネット利用環境整備に関する提案」について説明

② 自由討議

【中村主査】

提案は3つの柱がある。最初が普及啓発だが、ご意見・ご質問等いかがか。

【尾花構成員】

普及啓発について、最近新しい課題が出てきている。私もだが、全国にはフリーあるいはNPO、ボランティアとして、eキャラ等に属さず、個々で地元のインターネットインストラクターの資格、あるいはインターネット協会さんの資格を持って個人的に活動している等、草の根的に一生懸命個人で活動している方たちが増えてきている。また企業さんがCSRの一環として大変すばらしい教科書や取り組みのプログラムをつくり、熟知された講師の方を派遣している。これは素晴らしいことだが、そこで問題が生じている。

地域は、インターネット教育、情報モラル教育、啓発教育の予算を大きく確保しているわけではないので、質のいい先生が立派な教科書を携えて、交通費も講師料も取らずに来てくれるという現状を知ってしまうと、地元の講師が幾ら育ってきても、そこに仕事が落ちていかない。今まではやる人が少なく、どこに頼めば良いかわからないという状態だった。私たちがセミナーをやる時は、例えばパワーポイントをプリントアウトしていただく際、先方のご予算でモノクロになることもある。企業さんが行かれるとカラーの素晴らしいリーフレットやテキストがあり、どれだけ行っても、何をしてもらっても全部無償でとなると、そちらを待ってでも頼もうという地域が出てきてしまった。地元のインストラクター、NPOの人たちの仕事がなくなっていってしまうという声を何方所でも聞いている。

ここはバランスの問題と思っており、どちらが良い、悪いではない。最近は交通費や講師料を設定してくださっている企業さんや団体さんもいる。身近な子供たちの現状もよく知っている地元のインストラクターの芽を、地域の自走していける芽を潰さないような協業方法がないかと思いついて悩んでいる。啓発活動の大きな分岐点に来ており、うまく浸透してきて、次の段階に入ったがゆえの課題。

【中村主査】

2つ目のフィルタリング、これまでコメントが一番出ていたところだが、いかがか。

【尾花構成員】

内閣府の今年2月発表の統計資料でフィルタリングの数値が出ていたと思うが、スマートフォンと携帯電話を別々に調査しており、数が少なくなっているとはいえ、携帯電話のフィルタリング普及率は小学生が一番高い。ところが、スマートフォンのフィルタリングの普及率は、一番新しい調査では小学生が最低。人生経験も浅く、善悪の区別や、人の悪意を見抜くのが難しい年齢の子供の方が、フィルタリングをかけずに使っているのが現状。

先だって発言したキッズモード等の設置も有効とは思いますが、本格的に保護者に通知等して、意識、あるいは危機管理の面で、もっと認識してもらえるような対策が必要。中・高生は自分たちでフィルタリングをつける、つけないの判断をする可能性が高いとは思いますが、小学生についてはおそらく保護者判断。今回のまとめの中にもそうしたニュアンスのことは入っているが、保護者に対してフィルタリングの必要性を伝えるにはどんなツール・体制が必要か、20%台という小学生のスマートフォンフィルタリング導入率を改善するために何かできないかということ、早急かつ重要事項としてやっていかないといけない。

【宇津木構成員】

携帯電話、スマートフォンに加え、小学生、中学生の間でiPod touchやウォークマン等、携帯ではないものの利用でのトラブルも、スマホとほとんど変わらない数で存在する。ゲーム機はペアレンタルコントロールで対処できると思うが、音楽プレーヤーはほぼスマホと変わらないので、そこに関しても一文あれば、保護者の方の意識も違ってくる。この点、e-ネットキャラバンで言っていると、スマートフォンは持たせていないがiPod touchを使っているという生徒が非常に多い。キャリアさんには関係ないことかもしれないが、ご検討いただきたい。

【尾花構成員】

フィルタリングの実施方法として、18歳未満の学割に関してはフィルタリングとセットという体制がつかれないか。大学生、専門学校生は学生証を持っているので、年齢確認時に学生証を見ればフィルタリングを外してもいいとわかる。後日解除・調整するのは保護者や家庭に任せていいと思うが、18歳未満の学割についてはフィルタリングとセットにし、フィルタリングに加入しなければ大人と同じ使い方をするんだから、学割は適用できないという形がもしあれば、普及率は上がり、保護者が何でと考えるきっかけにもなる。選択肢の1つとしてあるということに記載いただき、皆さんで議論いただけたらと思う。

【森構成員】

利用者・事業者双方にとって使いやすいフィルタリングの実現について、22枚目のスライドの取りまとめの最初の丸で「同じアプリでも使える子供と使えない子供が出てくる点が問題」、その次で「(1) 青少年のニーズと利用形態に合致したフィルタリングの実現」と。そのとおりとは思いますが、そこで起きているのは、一方でネットワーク効果というか、非常に広く普及してインフラになっていること。他方、これまでの基準を使っていると、インフラ化したものでもそう簡単にはホワイトのほうに入れられない、というような場合にどうするかという問題がある。結局、皆が使っていてニーズが高いからホワイトに入れないと仕方ないという話になるが、そうすると結局、安全なものを確実に第三者が評価し消費者に示すという本来の第三者認証の機能からは離れてしまう。離れてしまうが、そう言っていると、結局フィルタリングが利用されず、全くフィルタリングのない世界に青少年が置かれることになる。

これはある種の撤退戦であって、基準を厳格には維持できないという面はあるが、その代替手段として既に実務的にも、インフラ化したサービス、事業者、アプリと何がしかのやりとりをして、一定の措置を講じてください、等、フィルタリングの基準を提供する側から依頼することがある。厳格にやっているだけではうまく回らず、現実的な対応が必要で、その中には選択肢として、あくまでも次善の策だが、広く使われているアプリ、サービス、ウェブサイトとフィルタリング側のやりとりが必要だということ。

書きぶりは抽象的にはこの通りと思うが、難しい問題があることは申し上げておく。

【浅井構成員】

小・中学生がフィルタリングをどうやったらつけるようになるか、一般論として知り合いの教科調査官と話をした。彼が言うには、中学、高校では安心・安全をちゃんと教科の中で教えている。高校生になると、外したいと言った子に対してはホームルームや生徒指導の場面で指導ができる。ただ、保護者に義務づけられており、小・中学校の子供たちは保護者が判断することになっているため、子供たちは直接的には学ばないし、知らない。小・中学生に本当に届くようにするなら、両面作戦が必要。小・中学校で、全教科の学習指導要領に入っている情報モラルの中でフィルタリングのことを「保護者に義務づけられているものだけでも、こういうものですよ」というのをもう少し扱えれば、上手くいくのではないか。次の指導要領に向けて議論される中で、小・中学校の中で子供として学ぶべきことは伝えるということが入ったら良いと思う。

【森構成員】

浅井先生から非常に貴重なご意見があったので伺いたい。前回申し上げたが、教育とは違うのではないかと考えている。素人なので、教育かそうでないかを申し上げるべき立場にないが、フィルタリングがどういうもので、どのような意義があって利用すべき、ということは、どちらかといえばフィルタリングを提供する方で頑張る事項。学校ではそれを紹介し、何でもいいからつけろと言っていたのが一番手っ取り早い。前回申し上げたが、「夜間に繁華街をうろうろするな」と言うことと同じではないかと考えており、そういったことをやっていただければ良いと思う。

【浅井構成員】

一理あるとは思うが、私の立場からの感覚で言うと、つけなさいと頭ごなしに教えても、現実はなかなか変わらない気がする。フィルタリングを直接教えるというよりは、情報の判断とか、メディアや情報、メッセージ等とどうつき合うかという人間の基本的なことを、どう道徳や情報モラル、他の教科で教えるのが大事。

フィルタリングをつけなさいと教えても、自分がゲームしたくてつけなかったら、それで終わり。メディアと情報とどうつき合うかという、もっと核になる力をつけるところに目を向けないと現状は変わらない。

【森構成員】

確かにそうかもしれないが、やはり子供にフィルタリングの意義とか価値を強調しても、私が中学生・高校生だった頃を思い返せば、そんなものをつけずにゲームがしたい、アダルトサイトが見たい、赤裸々に申し上げれば、そういうことだった。それはネズミにチーズの番をさせるということ。それによって得られることは、それはそれで別にあり、メディア・リテラシー、インターネット・リテラシーとして教育をする中でフィルタリングというものについて知る、学ぶ、やがては彼らが子供を守る立場になっていくという点では必要。しかし、今々のこととして子供を危険なサービス・アプリから遠ざけるには、やはり子供に対して働きかけるより、父兄に対し、それこそどういうものを持ってこいとか、夏休みにこういうことをするとか、そういう形で定言的に言っていたのが良いと思う。

【上沼構成員】

森先生の話について言えば、繁華街をうろうろするなというのは、インターネットには知らない人がいっぱいいるから、知らない人のところに行くなよと、そういうレベルの話

で、浅井先生のおっしゃっているのは、まさに本質的なリテラシーとは何かというお話。森先生がおっしゃるように、知らないところに行くなというのはぜひ言っていただきたい。

その前の話に関し、利用者、事業者双方にとって使いやすいフィルタリングの実現の前提として、事業者さんが広報等をされる際に青少年に届けたいと思うのであれば、青少年が使っているサービスを使っての広報をぜひ検討してほしいと一言入れていただきたい。

【中村主査】

3つ目の体制の整備、ここもかなり繊細なことが色々と書いてあるが、いかがか。

【宇津木構成員】

一昨日、e-ネットキャラバンプラスというe-ネットキャラバンのもう一段階上の、フィルタリングについて詳しく説明するプログラムの資料をつくる打合せをしていたが、内容が相当難しくなってしまう。どうかみ砕いて保護者の方に伝えようかというのが大変だと感じている。e-ネットキャラバンが大変だから言うわけではないが、簡素化することが保護者の理解促進への一番わかりやすい近道だと思うので、フィルタリングの対象の見直し等を、キャリアさんにご協力いただき、何とかやっていただきたい。

【中村主査】

この資料で「新しい体制の整備に向けた関係団体間での具体的な議論を行ってほしい」、「3つの項目について早急に関係者による議論の場を立ち上げて、結論を得るように向かってほしい」という2つのメッセージを込めている。関係団体間といったときの団体というのは、おそらくこの部屋におられる方々がメンバーになる。関係者というのも、おそらくこの部屋の中の方々が中心になり、具体的に何をどうするかを詰めてほしいということ。提言とはいえ、皆さんに投げかけられたボールということになる。言うておくべきことがあれば、今のうちにお出しいただければと思う。

【白戸氏（(一社)安心ネットづくり促進協議会事務局（尾上構成員代理））】

体制づくりのところ、1番や2番にも関係するが、まずフィルタリングの仕組みの見直しについて、キャリアやTCA、EMA、OSベンダーが協業して検討できる体制づくりに安心協も入り、場を一緒に設けていきたい。安心協でもフィルタリングの検討作業部会というのをやっており、それに紐づくようなワーキングを立ち上げ、早急に検討の場を設けていきたい。啓発の部分に関しても、質を上げていこう、使いやすいようにパッケージ化していこうという案もあり、そもそもどういうことを啓発していくべきかという中身の

問題を含めての検討の場を、同様に安心協の普及啓発の作業部会のワーキングでやっているということ、そちらを動かしていきたい。

【岸原構成員】

26 ページ目が全体の取りまとめかと思うのでコメントさせていただきたい。最初の丸、「関係する各団体の役割を一層明確化した上で我が国全体としての効果的な運用体制の確立を目指すべきである」、これはある意味正しいと思うが、啓発は啓発だけ、フィルタリングはフィルタリングだけで改善していくと不整合が起きる。目的とする方向が違うこともあり得るので、啓発とフィルタリングのバランス、あるいは団体だけではなく、フィルタリングと啓発の役割分担のバランスを考えて、といった要素を入れていただけると良い。

【尾花構成員】

先ほどから浅井先生が色々とおっしゃってくださっているように、この中に学校教育に具体的に触れるような項目を1つ追加していただければ幸い。今後、プログラミングの授業の必須化等、どんどんICTのことが、デジタル教科書の導入も含め、学校現場に色々な形で入ってくる。若い先生方は得意かもしれないが、苦手感の強い先生も少なくない状態で、学校として取り組まなければいけない、あるいは学校だけではなく教育委員会等、行政的な教育関係者が教育の面からフォローしないと、体制ができ、事業者さんが努力しても、結局ネットでのフィルタリング関連のトラブルはなくなるということ認識していただけるような内容にしていただきたい。資料や啓発材料の提供は私たちが努力していくという形で協業できるような、そういうメッセージを追加していただければ幸い。

【中村主査】

それではもう一度全体について、何かあればご指摘いただければと思うが、いかがか。

【治良オブザーバー（(一社) 全国携帯電話販売代理店協会）】

携帯電話販売代理店協会ということで、議論の取りまとめの中で、フィルタリングの設定については一番フロントの部分を担当している。現状を申し上げますと、フィルタリングについての説明時間、キャリアさんの資料では最大20分と書いてあるが、我々の認識では最大30分位かかる可能性もある。特にiPhoneの場合は、Apple ID取得も含め結構な時間がかかる。

本来であれば店頭のスタッフがやるべきでないことを、お客様の対応ということでして差し上げるということも、やっている代理店とやっていない代理店がある。ここのばらつ

きは、キャリアさんからの指導があるわけではなく、現場の判断に任されているのが現状。そういうばらつきのある中で、設定の仕方が非常に複雑になってきている。店頭のスタッフも非常に時間がかかり、それが結局はお客様に迷惑をかける。だから、もういいと言われると、つついお客様の言うことを聞いてしまう。こういう現状があり、それを踏まえた上で、我々もリテラシーの向上活動、e-ネットキャラバンに積極的に参加するようにしており、宇津木さんがおっしゃったe-ネットキャラバンプラスについても、またフィルタリングはどうあるべきかについても、意見を述べさせていただいている。

そういうことも我々の活動の一環として考えてはいるが、いかんせん時間がかかり過ぎているのが実態。解消のため、シンプルな形にぜひもっていただきたい。我々としては、端末にアプリがプリインストールされていて、1、2分の操作でフィルタリングができるような形が一番良く、宇津木さんがおっしゃった簡素化というのが現場にとっては一番助かる。この辺はご検討いただき、提言として積極的に我々も申し上げていきたい。

【岸原構成員】

22ページ目の2番目の丸ポチのところ、フィルタリングは違法、有害なコンテンツを制限するという良さもあるが、どうしても仕組みとしてオーバブロックというデメリットがあることは理解した上で進めなければならない。その点、ここに書かれている「青少年のニーズと利用形態に合致したフィルタリングの実現」というのが同じことを言っていると思うが、ではニーズと利用形態があれば何でも外すのかといったところもあるため、「制限しなくていいようなコンテンツのオーバブロックに対応して」といった文言も入れていただいたほうが、なぜこれが必要かということがわかり、良いと思う。

【柴崎オブザーバー（(一財) マルチメディア振興センター）】

e-ネットキャラバンプラスという言葉があったので、3点コメントさせていただく。10ページで私どものe-ネットキャラバンをご紹介いただいております、その中で、新たな講座の創設という提言をいただいている。これに対応するものとして、e-ネットキャラバンプラスということで、従来のリテラシー教育からもう一步踏み出し、フィルタリングを含めた応用的な講座を準備しており、秋口からの実施を考えている。全携協さんにもご協力いただいております、委員の皆様からもご意見を伺っている。ぜひ進めてまいりたい。

2点目として、26ページ、効果的な運用体制の話がある。色々な場所で言われていることかと思うが、内閣官房の情報セキュリティセンターの情報セキュリティ推進協議会でも、各団体のばらばら感がありもったいないという意見はある。安心協さんからも発言が

あったが、やはり効果的に伝わるということで、キーメッセージの統一や、共同での広報等、方法をぜひ関係の団体の皆様と考えてまいりたい。

3点目、尾花先生から学校教育の指導要領等、何かしら施策に取り込めないかと提言があった。私どもが申し上げるようなことはあまりないが、学校教育を補完するものとしてe-ネットキャラバンが位置づけられているのではないかと心構えでやっている。毎年度末に文科省様と総務省様の連名で、教育委員会や都道府県に対し、e-ネットキャラバンの推進に関する文書を発出いただいております、それがきっかけで学校から申し込みが来ることも非常に多いので、補完的な役割も果たしていると考えている。

【松井オブザーバー（ソフトバンク株式会社）】

先程の全携協様や安心協様の発言に関し、資料の26ページ目、関係団体で具体的な議論を行うということが書かれており、当然進めていきたいと思うが、実際どういうプレーヤーが入るのか。基本、ここにいる皆様なのだろうという話があったが、ステークホルダーを明確にし、より早く検討体制が動き出すような形で整理をさせていただけるとありがたい。全携協様も、お客様に接せられているフロントということもあり、こういう場に入ってください、色々知恵を出していただき、協調してやっていければと思っている。

別のパート、フィルタリングの15ページ目の話だが、OS機能の活用については早く実現したく、ひいては店舗の負荷の軽減、何よりも来られるお客様の負荷の軽減になり、フィルタリング率の向上にもつながるので、精力的にやっていきたい。また15ページ目の下から2つ目、コンセプトや名称の検討について、趣旨は非常に賛同しているが、前回もお話ししたが、OS機能を活用すれば、ある程度キャリアで統一的なフィルタリングサービスが提供でき、結果的にキャリア横断的な名称や説明方法にもつながり、効果的と思っている。一方でキャリアそれぞれのフィルタリングサービス等もあり、完全にゼロクリアして一から作り直すのも現実的にどうかと思うところもある。最終的には是々非々で、どういうタイミングで何ができるかを関係者の皆様と議論させていただきたい。

最後に、尾花様のほうからご発言いただいた、18歳未満の学割とかを申し込まれるお客様にはフィルタリングをセットでというお話、フィルタリング率の向上にはすごく効果的だと、感覚的には思う。一方で不使用申出書等、明確な理由で要らないというお客様に対しても強制的につけるのかといったところは、今の法律との関わりもあるため、何ができるのかを、新しい場などをつくり、議論させていただきたい。

【尾花構成員】

学割のフィルタリングに関しては、おっしゃる通りと思う。立場的には勝手なことを申し上げたが、その辺はうまく整合性をとる必要がある。

TCAさんにお問い合わせがあり、関係団体が顔を合わせる際、ぜひ既存の携帯事業者さんと、MVNOに関わっている団体・事業者の皆さんと一緒に顔を合わせ、何が問題なのかを一度議論いただきたい。26ページのまとめの部分、「新たな体制の整備に向けた関係団体間での具体的な議論を行うべき」というところで、MVNO事業者さんとの歩み寄りを示唆できる部分もある。トライアル的に一回でもいいのでご議論いただき、感触をこの場で教えていただければと思う。

【中村主査】

今日もたくさんご意見、コメントをいただいた。それぞれを提言という形で出すのか、要望・期待というところに留めるのか等、整理する必要はあるが、いただいた意見を私の責任で提案事項に反映し、必要に応じて皆さんに相談のうえ、ここまでのタスクフォースの提言という形でまとめて公表したい。

普及啓発の見直しやフィルタリングの仕組みの変更については、来春を目標にすべきとしており、関係者による議論の場を設けて進めていくことも促している。それを進めてもらい、年内に一度、検討状況の報告も含め、皆さんの意見を改めて伺う場を設けたい。

3回という短い期間だったが、提案をまとめ、それを公表して世に問うことで、新たに議論を行う場の創設等、次のステップに進めたい。皆さんには、この青少年の安心・安全のインターネット利用環境の整備に向けて、引き続きご尽力をいただくようお願いしたい。

【木村オブザーバー（(一社)テレコムサービス協会）】

MVNOについて言及があったので、最後に申し上げたいが、我々も当然関係者だと思っており、安心協の場等でもキャリアさん、TCAさんと一緒に参加させていただいている。MVNOの取り組みは遅れたので、一歩、二歩、周回遅れだが、TCAさん、キャリアさんの取り組みを参考にしつつ進めていきたい。関係者として積極的に関わっていく。

【中村主査】

この場にお越しいただいている皆さんにも、引き続きご協力をお願いします。

(以上)